

三重県および奈良県における豆類・雑穀類在来品種の探索収集

中山 博貴・勝田 (石) 真澄

農業生物資源研究所・遺伝資源第一部・植物探索研究チーム

Exploration and Collection of Crop Landraces in Mie and Nara Prefectures

Masumi KATSUTA-SEKI and Hiroki NAKAYAMA

*Laboratory of Plant Genetic Diversity, Department of Genetic Resources I,
National Institute of Agrobiological Resources, Tsukuba, Ibaraki 305-8602, Japan*

Summary

We conducted the exploration for millets and food legumes in Mie and Nara prefectures from Nov. 3 to Nov. 10 1997.

The central part of the Kii peninsular is mountainous and the cultivable fields are mostly located on mountainsides. Millets used to be grown in these areas as a staple food in place of rice.

A total of 90 samples were collected, 26 of soybeans (*Glycine max*), 10 of azuki beans (*Vigna angularis*), 28 of kidney beans (*Phaseolus vulgaris*), 5 of peas (*Pisum sativum*), 8 of foxtail millets (*Setaria italica*), 3 of common millets (*Panicum miliaceum*), 3 of sorghums (*Sorghum bicolor*), 2 of buckwheats (*Fagopyrum esculentum*), 2 of maize (*Zea mays*), Rice bean (*Vigna umbellata*), Yard long-bean (*Vigna unguiculata*) and ground nut (*Arachis hypogaea*). It is relatively easy to find farmers who grow landraces of millets or legumes in most villages. Landraces of soybean varies in the seed coat color and are yellowish white, green, black and brown. The pale yellow colored and small seed size varieties, which is suitable for processing tofu (soybean cake) or miso (soybean paste) has disappeared in many villages. Kidney beans were distinguished by the seed coat colors, planting seasons and vine types. Several farmers grow multiple types of soybean and kidney bean landraces. Foxtail millets, which are different in seed coat colors as yellowish orange or ash brown, were collected in four villages. In the village of Mie, the landrace seeds of millets were distributed to local farmers for supplying the confectionery industry.

KEY WORDS : Mie prefectuer, Nara prefecture, plant germplasm, millets, food legumes, landraces, exploration, collection

1. 目的

作物の在来種は育種素材として重要であるが、近代品種の導入や生活様式の変化などによって栽培が激減している。これらを遺伝資源として収集・保存することは緊急の課題であり、植物探索研究チームでは、関東・東北・四国・中国・南西諸島などにおいて在来種の探索収集を行ってきた。しかし、近畿地方については、これまで一度も体系的な調査を実施していない。

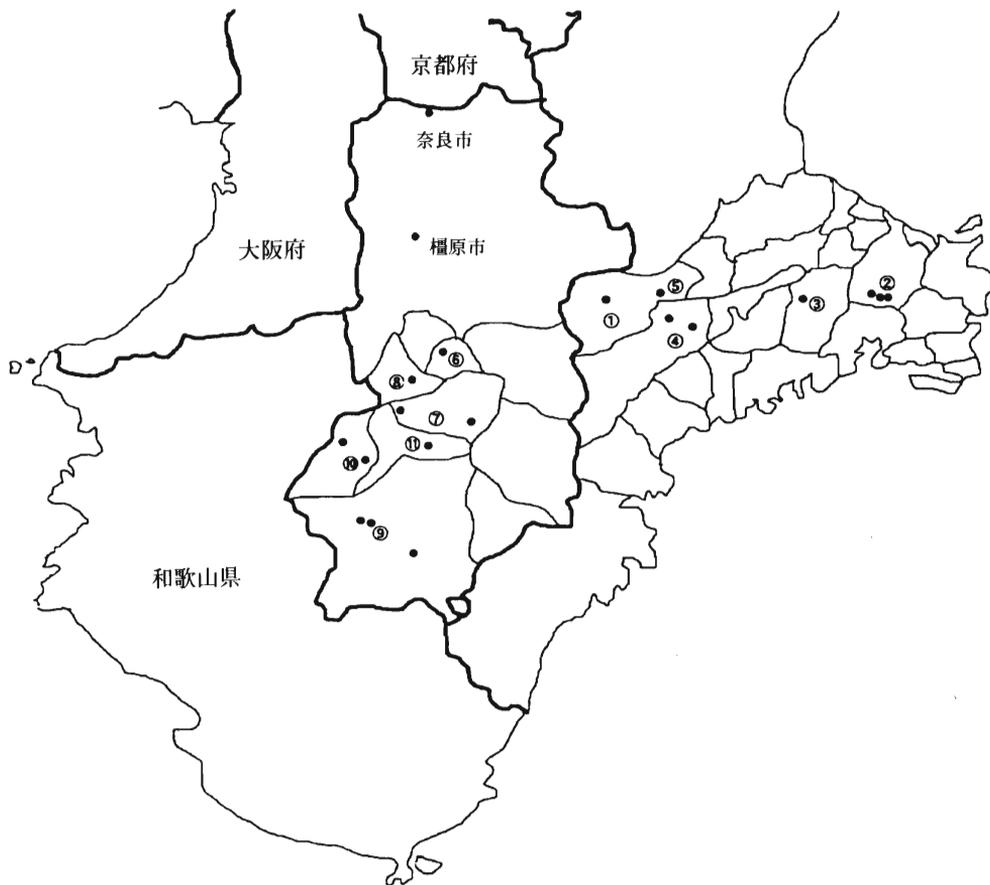
本年は、三重県と奈良県の山間地域を中心として、作物在来品種の栽培状況を調査する。

2. 調査方法

平成9年11月2日から7日まで、三重県飯南郡飯高町、伊勢市、度会郡度会町、多気郡宮川村および奈良県西吉野郡黒滝村、天川村、西吉野村、十津川村、大塔村、野迫川村の農家を訪問して在来作物の栽培状況について聞き取り調査を行った。調査経路および地点をFig. 1に示す。農家を訪問して、各地域における在来品種の栽培状況についての聞き取りを行った。在来品種の特性についての情報を集めるとともに、可能な場合には栽培農家から種子の分譲を受けた。

Table 1 Number of samples collected in each village.
収集品の内訳

調査地域	三重県				奈良県						Total
	飯高町 ①,⑤	伊勢市 ②	度会町 ③	宮川村 ④	黒滝村 ⑥	天川村 ⑦	西吉野村 ⑧	十津川村 ⑨	野迫川村 ⑩	大塔村 ⑪	
<i>Glycine max</i>	2		1	6	2	3	1	7		4	26
<i>Phaseolus vulgaris</i>	2	1			6	4	6	8		2	29
<i>Vigna angularis</i>	2		1	2	1	1	1	1		1	10
<i>Vigna umbellata</i>				2			1				1
<i>Pisum sativum</i>					2			1			5
<i>Arachis hypogaeae</i>								1			1
<i>Setaria italica</i>	3					1		2		2	8
<i>Panicum miliaceum</i>						1		1		1	3
<i>Sorghum bicolor</i>	1							1		1	3
<i>Zea mays</i>								2			2
<i>Fagopyrum esculentum</i>	2										2
Total	12	1	2	10	11	10	9	24	0	11	90



Date	調査地区 (地図上の数字)
Nov. 2	① 三重県飯南郡飯高町波瀬・七日市上り <small>みえけんいなんぐんいいたかまち は せ なの かいちのぼ</small>
Nov. 3	② // 伊勢市矢持町上村 <small>いせしやもちまちかみむら</small>
	③ // 度会郡度会町注連指 <small>わたらいぐんわたらいむすし め ます</small>
	④ // 多気郡宮川村菌・栗谷下手 <small>たきぐんみやがわむらその くりたにしもで</small>
Nov. 4	⑤ // 飯南郡飯高町赤桶・田引 <small>あかお たびき</small>
	⑥ 奈良県西吉野郡黒滝村御吉野 <small>ならけんにしよしの ぐんくろたきむら みよしの</small>
Nov. 5	⑦ // 天川村上庵住・塩野 <small>てんかわむらかみいおずみ しおの</small>
	⑧ // 西吉野村勢井 <small>にしよしの むら せい</small>
Nov. 6	⑨ // 十津川村武蔵・山天・川津 <small>とつかわむらむさし やまて かわつ</small>
	⑩ // 野迫川村 <small>のせがわむら</small>
Nov. 7	⑪ // 大塔村惣谷 <small>おおとうむらそうたに</small>

Fig.1 Itinerary for the exploration. 探索収集日程と行程

3. 調査地域の概要と在来品種の栽培状況

紀伊半島の中央は、宇陀山地、金剛山地、大峰山脈、紀伊山地などからなる山間地であり、多くの集落は標高数百メートルの山腹に点在している。水田は少なく、傾斜地に畑が作られ、第二次大戦前後まで焼畑が行われていた地域もあり、雑穀への依存度が高かった。今回調査を行った地域のうち、三重県飯高町と奈良県天川村、大塔村、十津川村では、京都大学農学部が1976年から1980年にわたって、6回の雑穀遺伝資源の分布調査を行っている。その時点では、50集落中27集落でアワ、ヒエ、キビ、ソルガム、シコクビエなどの雑穀が栽培されており、アワを栽培している集落がもっとも多かった。しかし、過去に栽培されていた複数の品種の大部分は失われており、この調査を実施したときにはすでに遺伝資源の減失が進んでいたことが報告されている¹⁾。

三重県飯南郡飯高町では、アズキ・ダイズ・インゲンマメなどを自家採種で栽培していたが、種苗店で在来品種の種子を購入して、種子を更新している農家もあった。ソバは、信州産の大粒品種を導入したという農家があった。しかし、在来品種に比べて粉の量が少なかったため、現在は在来の小粒品種を栽培しているという。雑穀は、一時期ほとんど栽培されなくなった。しかし、最近になって菓子などの材料としての需要が高くなり、赤桶（あかお）地区の尾辺米穀店が、かつて近在で栽培されていたアワ・キビ・ソルガムの種子を農家に配って栽培を復活し、栽培面積も増え始めた。委託栽培された収穫物は、伊勢米穀企業組合を通じて菓子屋（赤桶）などへ買い取られたり、“道の駅”で村の特産品として販売されている。

伊勢市矢持町は山間地に集落が点在する地域である。近年、周辺の山や森林から侵入する猿や猪による農作物の被害が急増しており、聞き取りを行った横輪川谷沿いの三集落（下村・菖蒲・上村）では、10年ほど前まで栽培していたという豆類在来品種の種子が、野生動物の食害によってほとんど失われていた。

度会町注連指地区は、水田地帯で畑は少ない。栽培していたのは、知り合いから譲り受けたアズキやダイズであり、古くからの在来品種を栽培する農家は見出せなかった。

宮川村は山間の平坦地に圃場があり、豆類の在来品種などが栽培されていた。宮川沿いの藪という集落では20年前までは雑穀栽培をしていたというが、現在栽培している農家は無かった。宮川上流の栗谷下出の寺浦勝平氏はダイズやアズキの在来品種を栽培していた。ダイズは粒大の異なる白粒品種や黒豆、青豆など多くの種類を栽培していた。

奈良県西吉野郡は、十津川渓谷や支流に沿った山間地に集落がある。昭和30年頃まで焼畑が行われていた地区もあり、急峻な斜面に民家や畑が点在している。水田はほとんどなく、かつては雑穀への依存度が高い地域であった。黒滝村、天川村、西吉野村では、ダイズ、インゲンマメ、エンドウなど豆類の在来品種が栽培されていた。インゲンマメは、一戸の農家が種皮色の変異とともに、播種時期やつる性の異なる品種を複数栽培している。

ダイズは色や粒大の異なる品種を栽培していた。しかし、かつては“お大師さんまめ（茶大豆）”、“ぶんどろ・のらまめ（ツルアズキ）”、“なんば（トウモロコシ）”や雑穀なども栽

培していたという。“のらまめ”は西吉野村勢井の岩本昭子氏が雑草として畑に出現した個体から採種した種子が残っていた。雑穀は、天川村塩野の上村えつ子氏がキビやアワを栽培していたが、現在も雑穀を栽培する農家は少なかった。

野迫川村で聞き取りを行った集落は、定年後に帰農した農家の多い集落や、週末や夏だけを過ごす世帯しかいない過疎の集落などであった。高野山に近く、大阪や奈良への道路が整備されていて都市圏との往来が比較的容易な地域であり、古くから在来品種の栽培を続ける農家は少ないものと思われる。

十津川村と大塔村は京大の調査で、最も雑穀類の栽培が残っていたと報告されている地域である。今回の調査でも、比較的容易に雑穀や豆類の在来品種を栽培する農家を見出すことができた。十津川村武蔵の中村浩子氏は、豆類や雑穀など多数の在来品種の栽培を続けていた。豆類は、天川村や西吉野村と同様に、種皮色の異なるダイズや、播種期の異なるインゲンマメなどを複数栽培している。山天の泉谷かね氏も豆類や雑穀を栽培していた。またこの集落では、もち種とフリント種のトウモロコシ在来品種を栽培していた。フリント種は“十津川なんば”と呼ばれ、古くからこの地域で栽培されていたという。大塔村惣谷では、種皮色の異なる2種類のアワやキビ、ソルガムなどの雑穀や豆類の在来品種を栽培していた。自家消費用だけでなく、雑穀商が買い付けに来るとい理由で雑穀の栽培が続けられていた。

4. 収集品の特徴

野迫川村を除く9市町村の16集落で、ダイズ26点、アズキ10点、インゲンマメ28点、エンドウマメ5点、アワ8点、キビ3点、ソルガム3点、ソバ2点、トウモロコシ2点と、ツルアズキ、ジュウロクササゲ、ラッカセイ各1点の計90点を収集した。特に、ダイズやインゲンマメには多様な品種があり、一軒の農家がそれぞれの在来種を数種類ずつ栽培している事例も多かった。

ダイズは種皮色に白・黒・緑がある。ほとんどの農家は、種皮色の異なる品種を一種類ずつしか栽培しないことが多いが、宮川村では“ナリスケ”という呼称の小粒品種が大粒品種と共に栽培されていた。種皮色白の品種には大粒と小粒の品種がある。小粒品種は味噌や豆腐などの加工用に適していたというが、現在も栽培している農家は少ない。また、ダイズには早晩生の異なる品種があり、5月下旬から6月にかけて播種し、早生は10月上旬、晩生は11月中旬頃に収穫されていた。また、種皮色が茶色のダイズは黒滝村ではすでに栽培されていなかったが、十津川村と大塔村では茶大豆の種子を収集することができた。ダイズは煮豆や枝豆として利用したり味噌・豆腐などの加工用のほか、砕いた煎りダイズを入れたお湯を、健康食品として毎日飲むという農家もあった。

インゲンマメは種皮色のほか、ツルの有無、播種期でも区別されている。種皮色は、赤紫・白・茶・斑などで、粒形は丸・楕円が多く、腎臓型は十津川村で収集した1点のみであった。4月中旬に播種して6月から収穫できるグループは“ハルノマメ(ハルノササギ)”とも呼ばれる。“アキノマメ(アキノササギ)”は6月に播種して11月中旬まで収穫できる。ハ

ルノマメにはつる無しが多く、アキノマメにはつる性の品種が多い。また、ニドマメ・サンドマメという呼称の品種は、4月から6月にかけて播種期をずらして栽培することができる。ほとんどの品種が莢食と煮豆に併用されていたが、莢の食味が悪く煮豆だけに利用する品種もあった。

アズキは一部の農家が栽培しており、収集したのは種皮色赤の品種だけであった。西吉野村では、昔は白や黒斑種皮の品種も栽培していたというが、現在も栽培する農家は見出せなかった。天川村や黒滝村の焼畑で救荒のために栽培していたというツルアズキは、西吉野村に雑草としてわずかながら残っていた。ここで入手した種子には、赤紫の種子に白い種子が混入していた。

エンドウは、黒滝村で子実用の白花品種と莢食用の紫花品種を収集した。その他の地区では、子実用の白花品種だけを収集した。

雑穀を栽培する農家は少数ではあるがほぼ各村に見出せた。収集点数が最も多いのはアワで、ソルガムやキビを栽培する農家は比較的少なかった。飯高町では、米穀店が農家に栽培を委託する際に譲渡したソルガムやアワの種子が町内で栽培されていた。十津川村の武蔵と川津で栽培されていたアワは、いずれも同村内の折立（おりたち）という集落から種子を入手していた。武蔵で昔栽培していたアワは現在栽培している品種と種皮色が異なっていたということから、現在栽培しているアワ以外にもいくつかの種類があったらしい。大塔村では種皮色黄の品種と、クロアワという呼称で、種皮が灰褐色の品種の種子を収集した。天川村で収集したクロアワも種皮色が灰褐色で、黄色いアワよりも粘りがあって美味だという。

キビは、種皮色褐色と白色品種の種子を入手した。

十津川村で収集したトウモロコシ「十津川ナンバ」は、黄色粒に紫粒が混ざる（おはぐろ）フリント種で、生食用に栽培されている。黄色のもち種は粉にしてもちに混入したり、生食用に利用していた。

収集した種子については、半量を元種子として長期貯蔵施設で保存する。アワ、キビおよび豆類の種子は平成10年度に農業生物資源研究所の圃場で栽培して特性評価を行う。その他の種子についても順次特性評価を実施する予定である。

5. 所感

今回調査を行った地域は起伏の多い地形で、集落に通じる道路が狭い急坂であるため、集落間の移動に時間を取られることも多かった。急峻な斜面に張り付くように拓かれた畑で耕作している農家や、現在は植林された山でかつて焼畑をした頃の話をする農家などに出会い、山間地で営まれる農業の苦労を垣間見た。水田が少なく、限られた面積の耕作地での雑穀栽培が盛んであった地域であり、在来品種も多く栽培されていたという。

今回の調査でも、豆類や雑穀類の在来品種を栽培する農家を見出すのは比較的容易で、在来種の栽培は高齢者を中心に継続されており、豆類や雑穀を栽培している農家がいる集落は多かった。健康食や郷土食ブームの流れの中で、雑穀や豆類の栽培が再び注目を浴び始めて

いる。アワ、キビ、ソルガムなどは、近年になって栽培が再開した例も多かったが、村内や近くの集落で得た種子を入手して栽培をはじめており、地域の在来種は維持されていると考えられた。しかし、京大の調査結果と比べると、アワ等雑穀類における品種のバリエーションは減少しており、シコクビエを栽培している農家はなかった。

調査地域は、辺鄙な山間地域が多く住民の高齢化と過疎化が進んでいる。また、植林による周辺山林の植生変化などによって、猿・猪・鹿・鳥類などの野生動物による畑作物の被害が近年になって急増し、長年維持していた在来品種の種子を絶やしてしまった農家や、極端な過疎化によって古くからの就農者がいなくなった集落など、食生活の変化以外にも在来品種の栽培を途絶えさせる要因は多いことを感じた。

紀伊半島における調査は今回が初めてである。広範な地域での調査を心がけたが和歌山県などの未調査地域が残った。また、在来種の栽培が比較的多かった大塔村や十津川村などでも、更に詳細な調査を継続する必要がある。

6. 謝辞

奈良県西吉野地区の探索にあたっては、西吉野農業改良普及センターの前次長から、管内の在来作物の栽培状況についての詳細な情報を提供して頂いた。また十津川村役場農林課の浦氏には村内の雑穀栽培農家を案内していただいた。広範な地域で効率的に調査を実施できたのは、ひとえに両氏のご協力の賜であり、深く感謝申し上げたい。

また、我々の突然の訪問にもかかわらず、農作業の手を止めて長時間の聞き取りにご協力くださったうえに、貴重な種子の分譲をご快諾くださった農家の皆様のご厚意に対して、この場を借りて心から御礼申し上げます。

7. 参考資料

- 1) 竹井恵美子・小林央住・阪本寧男(1981) 紀伊山地における雑穀の栽培と利用ならびにアワの特性 季刊人類学 12(4) 156-197

Table 2 List of collected samples
 収集品リスト

収集番号	学名	作物名	呼称	来歴	収集地(標高m)	農家名
NC970101	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	大納言	購入種子	三重県飯南郡飯高町波瀬(はぜ) (285m)	藤本安生
NC970102	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ	在来	〃	〃
NC970103	<i>Fagopyrum esculentum</i>	ソバ	ソバ	在来	〃	〃
NC970104	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	小納言	在来	三重県飯南郡飯高町七日市上り (なのかいちのほり) (165m)	民谷かすみ
NC970105	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ササゲ	在来	〃 (165m)	〃
NC970106	<i>Setaria italica</i>	アワ	アワ	在来	〃	〃
NC970107	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ	在来	〃	〃
NC970108	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ササギ	在来	〃	〃
NC970109	<i>Fagopyrum esculentum</i>	ソバ	ソバ	在来	〃	紋坂里平
NC970110	<i>Setaria italica</i>	アワ	アワ	在来	〃	松井勇・さち江
NC970111	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ササギ	不明	三重県伊勢市矢持町上村(80m)	奥山久子
NC970112	<i>Glycine max</i>	ダイズ	アオマメ	在来	三重県度会郡度会町注連指(しめさず) (55m)	東谷きくの
NC970113	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	アズキ	在来	〃	〃
NC970114	<i>Glycine max</i>	ダイズ	クロダイズ	在来	三重県多気郡宮川村圃(その) (110m)	岡浦そわ
NC970115	<i>Glycine max</i>	ダイズ	シロダイズ	在来	〃	〃
NC970116	<i>Pisum sativum</i>	エンドウ	ミエンドウ	在来	〃	川岸ミサ
NC970117	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	アズキ	在来	〃	〃
NC970118	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	アズキ	在来	三重県多気郡宮川村栗谷下出 (くりたにしもて) (155m)	寺浦勝平
NC970119	<i>Glycine max</i>	ダイズ	クロマメ	在来	〃	〃
NC970120	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ナリスケ	在来	〃	〃
NC970121	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ	在来	〃	〃
NC970122	<i>Glycine max</i>	ダイズ	アオマメ	在来	〃	〃
NC970123	<i>Pisum sativum</i>	エンドウマメ	エンドウ	在来	〃	〃
NC970124	<i>Setaria italica</i>	アワ	アワ	在来	三重県飯南郡飯高町赤桶(あかお)	尾辺米穀店
NC970125	<i>Sorghum bicolor</i>	ソルガム	トキビ	在来	三重県飯南郡飯高町田引(たびき) (205m)	平居和佳
NC970126	<i>Pisum sativum</i>	エンドウマメ	エンドウ	在来	奈良県西吉野郡黒滝村御吉野 (みよしの) (425m)	中平期子
NC970127	<i>Pisum sativum</i>	エンドウマメ	エンドウ	在来	〃	〃
NC970128	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	テアリマメ	在来	〃	〃
NC970129	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	テアリマメ	在来	〃	〃
NC970130	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	テアリマメ	在来	〃	〃
NC970131	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	テアリマメ	在来	〃	〃
NC970132	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	テアリマメ	在来	〃	〃
NC970133	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	テアリマメ	在来	〃	〃
NC970134	<i>Glycine max</i>	ダイズ	シロマメ	在来	〃	〃

栽培時期	栽培法	利用法	地勢・地形	その他の情報
7月5-10日播種 10月下旬収穫		餡, 汁粉	山間平地	大粒, へそ白, 白さや, 種子は毎年更新(種苗会社で購入)
5月上旬播種 10-11月収穫	畦豆	豆腐	山間平地	種皮色淡緑, へそ黒, 昔は種皮色黄色もあった
7月末播種(ソバ菜) 8月末播種(実ソバ) 11月中収穫		お浸し, ソバ	山間平地	信州から導入した種子より小粒, 粉にした量が多い
7月3-4日(祭の頃) 播種10月10日まで 莢収穫		餡	山間平地	小粒, 餡の歩留まり良
7月20日播種 10月下旬収穫	子実用	煮豆	山間平地	つるなし, 種皮色赤紫
4月中旬播種 8月下旬-9月上旬収穫			山間平地	去年の種子
6月10日播種 11月上旬収穫		煮豆	山間平地	種皮色黄白
7月25日播種			山間平地	つる性, 種皮色紫がかった灰茶(くすんだ赤紫), 小粒, へそ周辺紫
8月26日播種 11月2日刈り取り		そば, 蕎麦湯, 茎葉灰で 蒟蒻や栃のあく抜き	山間平地	蕎麦湯は, 小匙1杯のそば粉にお茶を入れて飲む
4月10日播種 9月収穫		正月用餅, 米屋へ出荷用	山間平地	米等量と混ぜてついた餅, 種子は5-6年前米屋(尾辺米穀店)から入手
		莢用	山間平地	買種の可能性あり, ジュウロクササゲのことか, 莢長20-30cm, 種皮色黒
6月上旬播種 11月上旬収穫		みそ	河岸平地	4-5年前近所から入手
7月中旬播種 9月下旬-10月中旬収穫		餡, おこわ	河岸平地	5年前近所から入手
7月上旬播種 11月上旬収穫		煮豆, 喉の薬, 枝豆	山間平地	種皮色黒, 偏平粒
7月上旬播種 11月上旬収穫		煮豆, きなこ	山間平地	やや大粒, 種皮色黄白, 昔は小粒の早生品種があった
11月上旬播種		豆ご飯	山間平地	白花
7月(ネムの開花頃)播種 9月頃から順次莢を収穫			山間平地	
7月20日頃播種 10月上旬収穫		豆ご飯	山間平地	早播きすると種子が小さくなる
7月上旬収穫 11月中旬収穫		煮豆	山間平地	種皮色黒
7月上旬播種 11月上旬収穫		豆腐	山間平地	やや小粒, 種皮色白, 多収, やや早生
7月上旬播種 11月上旬収穫		健康食	山間平地	やや大粒, 炒った豆を砕き湯を入れて飲む
7月上旬播種 11月上旬収穫		健康食, 煮豆	山間平地	早煮え
11月上旬播種		グリーンピース	山間平地	白花(?)
		もち		雑穀の在来種子を集めて近在の農家に栽培を委託している。菓子屋へ卸す
4月上旬播種 6月~収穫	苗移植	粉にしてもち	山間平地	
11月上旬播種		子実用	山間傾斜地	白花, グリーンピース用
4月上旬播種 6月~収穫		若さや	山間傾斜地	紫花, 絹さや用
4月上旬播種 6月~収穫	子実用・莢食用	莢食, 煮豆	山間傾斜地	種皮色赤紫, つる性, 40年位前祖母から譲受
4月上旬播種 6月~収穫	子実用・莢食用	莢食, 煮豆	山間傾斜地	種皮色白, つる性, 友人から譲受
4月上旬播種 6月~収穫	子実用・莢食用	莢食, 煮豆	山間傾斜地	種皮色赤紫
4月上旬播種 6月~収穫	子実用・莢食用	莢食, 煮豆	山間傾斜地	種皮色茶
4月上旬播種 6月~収穫	子実用・莢食用	莢食, 煮豆	山間傾斜地	種皮色白
4月上旬播種 6月~収穫	子実用・莢食用	莢食, 煮豆	山間傾斜地	妹の家のおばあさんより譲受
6月初-中旬播種 10月上旬収穫		味噌, 煮豆(梅干・ちりめんじゃこ醤油砂糖味)	山間傾斜地	種皮色黄白, 赤穂(娘の嫁ぎ先)で譲受, 早生まめ(晩生は大粒)

Table 2 List of collected samples (cont.)

収集品リスト (続き)

収集番号	学名	作物名	呼称	来歴	収集地(標高m)	農家名
NC970135	<i>Glycine max</i>	ダイズ	クロマメ	在来	奈良県西吉野郡黒滝村御吉野(みよしの) (425m)	中平期子
NC970136	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	アズキ	在来	"	"
NC970137	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	シロマメ	在来	奈良県西吉野郡天川村上庵住(かみいおずみ) (550m)	小林砂千子
NC970138	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	キントキ	在来	"	"
NC970139	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ウズラ	在来	"	"
NC970140	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ハルノササギ(テナシマメ、ニドマメ)	在来	"	"
NC970141	<i>Glycine max</i>	ダイズ	クロマメ	在来	"	"
NC970142	<i>Glycine max</i>	ダイズ	クロマメ	在来	"	"
NC970143	<i>Glycine max</i>	ダイズ	シロマメ	在来	"	"
NC970144	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	アズキ	在来	"	"
NC970145	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ツルマメ(キンマメ)	在来	奈良県西吉野郡西吉野村勢井(せい) (510m)	岩木昭子
NC970146	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ツルマメ(ニシキマメ)	在来	"	"
NC970147	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ツルマメ(ヒロハシマメ)	在来	"	"
NC970148	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ツルマメ(シロマメ)	在来	"	"
NC970149	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ツルマメ	在来	"	"
NC970150	<i>Vigna umbellata</i>	ツルアズキ	ノラマメ(ノラアズキ)	在来	"	"
NC970151	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズマメ	在来	"	新子(あたらし)みどり
NC970152	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	アズキ	在来	"	"
NC970153	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	キントキ	在来	"	"
NC970154	<i>Panicum miliaceum</i>	キビ	キビ	在来	奈良県西吉野郡天川村塩野(しおの) (665m)	植村悦子
NC970155	<i>Setaria italica</i>	アワ	クロアワ	在来	"	"
NC970156	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ	在来	奈良県吉野郡十津川村武蔵(350m)	中村浩子
NC970157	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ	在来	"	"
NC970158	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ	在来	"	"
NC970159	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ	在来	"	"
NC970160	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	キントキ	在来	"	"
NC970161	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ハルノマメ	在来	奈良県吉野郡十津川村武蔵(350m)	中村浩子
NC970162	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	デコマメ	在来	"	"
NC970163	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ニドナリ	在来	"	"
NC970164	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	無名	在来	"	"
NC970165	<i>Setaria italica</i>	アワ	アワ	在来	"	"
NC970166	<i>Arachis hypogaeae</i>	ラッカセイ	ラッカセイ	在来	"	"
NC970167	<i>Panicum miliaceum</i>	キビ	コキビ	在来	奈良県吉野郡十津川村山田(やまて) (400m)	泉谷(いづたに)かね

栽培時期	栽培法	利用法	地勢・地形	その他の情報
6月初～中旬播種 10月上旬収穫		煮豆(正月用)	山間傾斜地	
6月下～7月上播種 9月下～10月上実を収穫	土用前「か」の付く日に播(ex.6/24)	ご飯(大粒)、餡(小粒) 11月第1日曜の祭に使う	山間傾斜地	つる性になる年もある
6月末播種 10月中旬収穫	子実用・実食用	実食、煮豆	山間平地	別名アキノササゲ、種皮色白、長円形粒、つる性
6月末播種 10月中旬収穫	子実用・実食用	実食、煮豆	山間平地	別名アキノササゲ、種皮色紫、丸粒、つる性
6月末播種 10月中旬収穫	子実用・実食用	実食、煮豆	山間平地	別名アキノササゲ、種皮地色茶・紫斑、丸粒、つる性
4月末播種 7月上・中旬収穫	畦間にアズキを播種後収穫	煮豆	山間平地	つるなし、「2回播種できる」の意味、中長粒、種皮色赤紫、2粒づつ点播
6月播種 11月上旬収穫		煮豆	山間平地	早生
6月播種 11月上旬収穫		煮豆	山間平地	晩生、やや大粒
6月播種 11月中～下旬収穫		味噌、昔は豆腐	山間平地	早生(昔は晩生もあった)
7月3・4日(祭の日)播種 10月10日位まで実収穫	インゲンの畦間に播種	餡、ぜんざい	山間平地	
7月上旬播種	実・子実用	煮豆、実食	山間傾斜地	モチモチして美味、つる性、種皮色褐茶、丸粒
7月上旬播種 11月収穫 7月下旬播種	子実用・実食用		山間傾斜地	2回栽培できる、つる性、種皮地色ベージュ・紫斑、実赤色斑
7月上旬播種 11月収穫 7月下旬播種	子実用・実食用	煮豆、実食	山間傾斜地	つる性、種皮色黒、丸粒、煮ると筋がでる
4月播種11月収穫	子実用	餡、粥、干芋と煮る	山間傾斜地	つる性、種皮色白
6月下旬播種 9月下旬から10月20日収穫	子実用		山間傾斜地	つる性、種皮地色紫・白点斑、中長粒
4月播種(柿の葉が茂り始める頃) 11月収穫	支柱を立てる	餡、粥、干芋と煮る。アズキの代用。食糧不足時の増	山間傾斜地	別名ブンドウ、保存種子、95年産に黄色種子混
7月上旬(半夏生直後)播種	苗移植	豆腐、味噌	山間傾斜地	種皮色黄白
6月27日～28日播種 9月下旬～10月20日収穫		餡	山間傾斜地	種皮色赤
7月上旬播種 10月中旬収穫	子実用・実食用	実食、煮豆	山間傾斜地	種皮色赤紫
5月末～6月上旬播種 10月上旬播種	点播 4-5本/株に間引	もち、おはぎ	山間傾斜地	馬鈴薯→キビ→白菜の順で栽培
4月中旬播種 10月中旬収穫	苗移植 (2-3本/株)	もち	山間傾斜地	黄色い粟より粘りがあって美味
6月下旬～7月播種 10月下旬収穫		味噌、きなこ	山間傾斜地	種皮色黄白、大粒、晩生、美味、収量少ない
6月下旬から7月播種 10月20日収穫		味噌、きなこ	山間傾斜地	種皮色黄白、小粒、早生、収量多い
6月下旬から7月播種 10月20日収穫		枝豆	山間傾斜地	種皮色茶、早生
6月下旬～7月播種 10月下旬収穫		煮豆	山間傾斜地	種皮色黒
4月10日(桜の頃)播種	子実用	煮豆	山間傾斜地	つるなし、長九粒、種皮色紫
4月10日頃播種	子実用	煮豆	山間傾斜地	つるなし、長九粒、種皮色紫種皮色赤紫・淡紫斑、腎臓型種子
6月末播種(ダイズと一緒に) 11月上旬迄収穫		実食、煮豆	山間傾斜地	つる性(美味)、種皮色紫、丸粒
6月末播種(ダイズと一緒に) 11月上旬迄収穫		実食、煮豆	山間傾斜地	つる性、種皮色赤紫、丸長粒
6月末播種(ダイズと一緒に) 11月上旬迄収穫		実食、煮豆	山間傾斜地	つる性、種皮地色ベージュ・紫斑、西吉野のニシキマメ似
3月末(彼岸ごろ)播種 8月20日収穫	間引き2-3回 後作はソバ	もち	山間傾斜地	折立(おりたち)より入手(昔栽培していたのとは違う)、精白すると黄色い、種皮色橙
5月中旬播種 11月掘上		煮物	山間傾斜地	野菜と炊き合わせる
5月10日～6月播種 9月刈り取り	筋蒔き	もち	山間傾斜地	米と半分に混ぜてつく、種皮色褐色

Table 2 List of collected samples (cont.)

収集品リスト (続き)

収集番号	学名	作物名	呼称	来歴	収集地(標高m)	農家名
NC970168	<i>Sorghum bicolor</i>	ソルガム	トウキビ	在来	奈良県吉野郡十津川村山天(やまたて) (400m)	泉谷(いずたに)かね
NC970169	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ニドナリ	在来	"	"
NC970170	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ウズラマメ(ニドナリ)	在来	"	"
NC970171	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	キントキマメ(サンドマメ)	在来	"	"
NC970172	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	チュウナゴン	在来	"	"
NC970173	<i>Pisum sativum</i>	エンドウマメ	エンドウ	在来	"	"
NC970174	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ(シロ)	在来	"	"
NC970175	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ(アオ)	在来	"	泉谷一明(かずあき)
NC970176	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ(クロ)	在来	"	"
NC970177	<i>Zea mays</i>	トウモロコシ	キビ	在来	"	中南(なかみなみ)忠房
NC970178	<i>Zea mays</i>	トウモロコシ	キビ	在来	"	"
NC970179	<i>Setaria italica</i>	アワ	アワ	在来	奈良県吉野郡十津川村川津(335m)	中畑やえ子
NC970180	<i>Panicum miliaceum</i>	キビ	キビ	在来	奈良県吉野郡大塔村惣谷(そうたに) (550m)	小谷堅正(けんしょう)
NC970181	<i>Setaria italica</i>	アワ	クロアワ(アオネ)	在来	"	"
NC970182	<i>Setaria italica</i>	アワ	アワ	在来	"	"
NC970183	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ササギ(ヒコウキマメ)	在来	"	"
NC970184	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ササギ	在来	"	"
NC970185	<i>Sorghum bicolor</i>	ソルガム	トウキビ	在来	"	"
NC970186	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ(アオ)	在来	"	"
NC970187	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ(クロ)	在来	"	"
NC970188	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ(シロ)	在来	"	"
NC970189	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	アズキ	在来	"	"
NC970190	<i>Glycine max</i>	ダイズ	チャダイズ(茶大豆)	在来	"	"

栽培時期	栽培法	利用法	地勢・地形	その他の情報
4月中旬播種 10月中旬収穫	苗移植	もち(粒・粉)	山間傾斜地	(穂標本あり)
6月上旬播種 9-10月収穫		英食, 煮豆	山間傾斜地	つる性, 莢丸太, 種白, 折立から入手
6月上旬播種 9-10月収穫		煮豆	山間傾斜地	つる性, 莢幅広食用不適, 種皮地色白・褐色斑(トラマメ似)
4月中旬, 6月上旬播種 6月末-収穫		煮豆	山間傾斜地	つるなし, 春秋兼用, 種皮色赤紫
6月中旬播種, 10月収穫		餡, ぜんざい, 飯, 赤飯	山間傾斜地	やや小粒, 種皮色赤紫
9月末播種		グリーンピース	山間傾斜地	白花
5月下旬播種 10月中旬収穫	苗移植(6月中旬)	きなこ, 味噌	山間傾斜地	種皮色黄白, 大粒
5月下旬播種 10月中旬収穫	苗移植(6月中旬)	味噌, 煮豆	山間傾斜地	種皮色緑
5月下旬播種 10月中旬収穫	苗移植(6月中旬)	味噌, 煮豆	山間傾斜地	種皮色黒
3月下旬~4月上旬(彼岸)播種 7-8月収穫	苗移植	粉にして餅に混入, 生食	山間傾斜地	もち種
3月下旬~4月上旬(彼岸)播種 7-8月収穫	苗移植	生食	山間傾斜地	紫粒(おはぐろ)混, フリント種
5-6月播種 9月収穫		もち	山間傾斜地	折立から入手
5月播種 9月収穫	直播	もち	山間傾斜地	種皮色白(黄種子は精白しにくい)
4月中播種 9月収穫	直播	おかき	山間傾斜地	種皮色灰褐色
4月中播種 9月収穫	直播	もち	山間傾斜地	種皮色黄
6月末~7月初播種 11月上旬まで収穫	直播	英食, 煮豆	山間傾斜地	種皮色白, 長丸粒
6月末~7月初播種 11月上旬まで収穫	直播	英食, 煮豆	山間傾斜地	種皮地色ベージュ・赤紫斑
4月初播種 9月収穫	苗移植(6月後半30cm頃, 葉を切って2-3本ずつ30cm間隔)	もち(粒・粉)	山間傾斜地	種子用は穂で保存(手でもんで播く)
6月播種 10月収穫		豆腐, 味噌	山間傾斜地	種皮色緑, へそ茶, 小粒, 早生, 豆腐に好適, 近所から入手
6月播種 10月収穫		煮豆	山間傾斜地	種皮色黒, 大粒, 中生
6月播種 10月収穫		豆腐, 味噌	山間傾斜地	種皮色黄白, 大粒, 中生
6月末~7月初播種 11月中旬収穫			山間傾斜地	
6月播種 10月収穫			山間傾斜地	種皮色茶